

三六七一番

ぬばたまの 夜渡る月に あらませば 家なる妹
に 逢ひて来ましを

三六七二番

ひさかたの 月は照りたり 暇なく 海人のい
ざりは 燈し合へり見ゆ

三六七三番

風吹けば 沖つ白波 恐みと 能許の泊まりに
あまた夜そ寝る